

- LINEヤフー株式会社は、弊社の環境基本方針である「情報技術の活用により、未来世代に向けた地球環境保全への取り組みを継続的に実践する」を基に、環境配慮型の次世代データセンターの建設に取り組んでいる。
- 新たなテクノロジーの導入によりサーバー電力の削減や電力損失の削減等、省電力を叶えつつ、データ圧縮、データ保存の最適化によりマルチビッグデータに対応できるデータセンターの建設を進めているところである。
- 白河データセンターを増築することで、データ量の増加に対応し、弊社の提供している広告サービス、コマースサービス等のサービス品質の向上及び安定的な供給といった付加価値の提供と環境への負担低減の両立を図る。

1. 事業適応計画の実施期間

2023年12月～2026年3月

2. 生産性向上目標

白河データセンターの炭素生産性を14.9%向上することを目標とする。

3. 前向きな取組の内容

白河データセンター 5号棟では、サーバー電力の削減、電力損失の削減、外気を利用した空調設備等の新たなテクノロジーの導入による省電力化及びデータ圧縮、データ保存の最適化によりマルチビッグデータに対応できるエネルギー効率の高い設備を導入する。
これにより、広告サービス、コマースサービス等のサービス品質の向上及び安定的な供給が可能となり、付加価値額の増加が見込めるとともに、電力消費に伴うCO2排出量を抑えることで、炭素生産性を向上させていく。

4. 支援措置

税制措置(カーボンニュートラルに向けた投資促進税制)

<白河DC全体イメージ>



<サーバー電力の削減効果イメージ>

7ラック・42KVA



サーバーの仮想化による



電力とスペースの削減

1ラック・8KVA



電力 : 約80% 削減
ラック数 : 86%~90% 削減